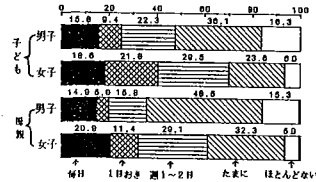
E 6

労働者家族における子どもの家事参加の実態と課題（第２報）

○高知大教育附養　舟橋久子　　高知学園短大　西本恵子
高知大教育　　鈴木敏子

目的　第１報に同じ。第２報では、第１報で明らかにした、家族の中で家事労働の遂行が母親＝妻に集中している等の実態を背景にして、子どもの家事参加の実態がどうなっているか、また、子どもの家事参加に関する子ども自身、および母親の意識状況を明らかにする。

方法　第１報に同じ。



結果　①決められた家事の役割があるという子どもは男子の31％、女子の39％で、右図にみるように、１日おき以上、すなわち日常的に家事参加している子どもは男子の25％、女子の40％にとどまっている。②家事を、子どもの身辺自立的なもの（8項目）と家族の一員として遂行するもの（22項目）に分類、それぞれ、よくしている（3点）、時々している（2点）、あまりしない（1点）、まったくしない（0点）のいずれに該当するか答えたものの平均点数が右表である。③いずれも、女子の参加程度が男子より大きく、母親の評価が子ども自身の評価よりかなり低くなっていた。④子どもも母親も、家事参加することの意義はかなり見い出しているのであるが、子どものほうは家事参加をしない理由として、テレビ、遊び、勉強、塾通いなどのために時間がないことや、家事を手伝っても文句をいわれることをあげ、母親のほうも、手伝わせても二重手間になることなどから、子どもの家事参加については必ずしも積極的なしつけ態度で臨んでいない様子がみられる。

	子ども		母親	
	男子	女子	男子	女子
自立的内容	1.17	1.70	1.07	1.67
家族全体の家事	1.06	1.44	0.93	1.44